

2018年10月号

FP武蔵野グループ

予算		予算	くりし	7月	8月	9月	残り
固定費 (積立)	ゆうちょ	¥38,000		¥38,000	¥38,000	¥38,000	¥0
	車積立	¥12,000		¥12,000	¥12,000	¥12,000	¥0
	医療保険	¥2,700	¥16,200	¥31,596	¥0	¥0	¥-7,296
	滞省費	¥10,000	¥10,638	¥0	¥32,962	¥0	¥7,676
	家賃	¥42,000		¥42,000	¥42,000	¥42,000	¥0
	奨学金	¥12,200	¥348	¥12,142	¥12,142	¥12,142	¥522
光熱費	電気	¥4,000	¥54	¥2,852	¥3,725	¥3,734	¥1,743
	ガス	¥4,300	¥-1,444	¥3,221	¥2,751	¥2,398	¥3,086
	水道	¥1,500	¥743	¥1,434	¥1,434	¥1,544	¥831
通信費	携帯	¥6,500	¥-5,255	¥4,912	¥4,851	¥5,865	¥-1,383
the 食	食材	¥7,000	¥3,052	¥6,998	¥5,247	¥6,983	¥4,824
	一人外食	¥4,700	¥1,041	¥4,479	¥3,622	¥4,435	¥2,605
	菓子・茶	¥3,800	¥908	¥3,968	¥2,750	¥3,493	¥2,097
その他	ガソリン	¥2,500	¥8,432	¥14,677	¥0	¥1,000	¥255
	医療費	¥2,000	¥6,525	¥5,608	¥3,119	¥6,860	¥-3,062
	生活品	¥3,500	¥8,484	¥1,268	¥9,551	¥6,954	¥1,211
	娯楽	¥2,000	¥-11,685	¥1,745	¥2,160	¥2,050	¥-11,640
	学習	¥1,300	¥4,591	¥1,080	¥1,570	¥3,275	¥2,566
	服・美容	¥10,000	¥16,009	¥23,819	¥7,748	¥4,950	¥9,492
	交際費	¥10,000	¥-1,009	¥8,275	¥6,826	¥5,500	¥8,390
		¥180,000	¥57,632	¥220,074	¥192,458	¥163,183	¥21,917

伊達 寿和(CFP®認定者)

金融老年学について

1. 人生100年時代

人生100年時代という言葉が最近耳にする機会が増えました。食糧や衛生状態の改善、医療技術の進歩もあり世界的に人間の寿命は延びています。人生60年だと思っていた時代から、気がつけば今や1桁増えた人生100年を考える時代になっています。

人生100年時代に向けては個人の生き方だけでなく、これまでの社会の仕組みも大きく変えていかなければなりません。政府に「人生100年時代構想会議」が設置され、これまで9回の会議が開催されています。

2. 3つの寿命

寿命という考え方も大きく変わりつつあります。これまで平均寿命が延びることで、いわゆる「生命寿命」が大きく延びました。また最近では健康であることの重要性が広く認識され「健康寿命」の概念についても普及してきました。予防医学やリハビリ技術の進展により「健康寿命」も今後延びていくことでしょう。

そして、現在注目されているのが「資産寿命」です。生きていくためにはお金が必要です。老後の生活費用は、年金や退職金、それまで蓄えた貯蓄でまかなうことになります。総務相の家計調査によりますと、高齢夫婦無職世帯では毎月約5.5万円の赤字家計となっており、毎月貯蓄を取り崩している実態が読み取れます。長く生きるためには必要なお金も増え、資産の使い方も考えなければならない時代になりつつあります。

「資産寿命」を延ばす一つの方法は、資産運用をしながら取り崩すという考え方です。資産を預貯金だけにして一方的に取り崩す場合と異なり、資産を運用することで資金の減少が抑えられる可能性が高くなります。しかし、加齢により認知機能が徐々に低下していくなかで、資産の運用がどこまでできるか。あるいはどのようにサポートをするべきかについては多くの課題があります。

3. 金融老年学

近年では老年学（ジェロントロジー）という学問領域が発達してきました。加齢に伴う変化が、本人や家庭、社会にどのような影響を与えるのかについて、特定の領域に限らず医学・生理学、社会学や心理学など横断的に研究する学問です。欧米に限らず日本でも研究が進んでいます。

この老年学を金融や資産管理の分野と結びつけたのが「金融老年学」といわれています。表現は「ファイナンシャル・ジェロントロジー」「金融ジェロントロジー」と様々ですが、示しているものは同じです。

2018年7月に金融庁から発表された「高齢社会における金融サービスのあり方」（中間的な取りまとめ）でも、ファイナンシャル・ジェロントロジーに言及があります。現在の投資勧誘等のルールだけではなく、よりきめ細やかな投資家保護のあり方の検討の必要性に触れています。

「資産寿命」の問題は近いうちに大きな問題になると考えられ、将来は老後も資産運用が必要な時代になる可能性は高いでしょう。徐々に認知機能が低下していくなかで、運用まで考えるのはなかなか大変なことだと思われます。今後は高齢者の資産運用をサポートする仕組みが新しくできてくると考えられます。お金の専門家であるFPとしても、これからの動向に注目しています。

以上